

横浜市感染症発生動向調査事業概要

平成25年(2013年)

平成26年12月

横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課
横浜市健康福祉局衛生研究所

はじめに

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況に関する情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その結果を速やかに関係者や市民に還元することによって、感染症対策に役立てることを目的としています。

横浜市では、昭和 53 年に、本市独自の感染症サーベイランス事業を開始しました。その後、昭和 56 年に全国レベルで国の事業として開始され、平成 11 年の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)の施行に伴い、感染症発生動向調査が法の下に位置付けられました。以降も感染症法の改正が実施され、感染症の分類や届出対象疾患などが追加・変更されています。

平成 25 年は、感染症法の施行令及び施行規則が一部改正され、感染症届出対象の 7 疾患が追加、1 疾患が削除されました。追加疾患のうち、「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」は、予防接種法改正による Hib、小児用肺炎球菌ワクチンの定期接種化に合わせて 4 月に追加されました。また鳥インフルエンザ(H7N9)は、3 月に中国でヒトへの感染が確認されたため、国内で患者が発生した場合に備えて指定感染症に定められました。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、1 月に国内で初めて確認され、国内での発生・まん延を防止するため追加されました。

平成 25 年の感染症発生状況では、特に首都圏を中心とした風しんの大流行が発生し、横浜市内でも大きな流行となりました。横浜市は風しんの流行拡大と、先天性風しん症候群の発生を防止するための緊急対策として、平成 25 年 4 月 22 日から風しんワクチン緊急接種事業を実施しました。市内では、秋に風しんの流行が収束しています。

この度、平成 25 年(2013 年)分の情報をまとめ、『横浜市感染症発生動向調査事業概要』を作成しました。感染症対策の参考資料として御活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、本事業の推進にあたり御協力いただいた横浜市医師会、定点医療機関をはじめ各機関の皆様、また本事業概要の執筆に御尽力いただいた感染症発生動向調査委員会の先生方、横浜市健康福祉局職員の方々に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 12 月

横浜市感染症発生動向調査委員会

委員長 満田 年宏

感染症発生動向調査委員会委員名簿

職名	氏名	所属
委員長	満田年宏	公立大学法人 横浜市立大学附属病院 感染制御部部長 准教授
副委員長	甲斐純夫	社会福祉法人 恩賜財団済生会 横浜市南部病院副院長 小児科部長
委員	北村勝彦	公立大学法人 横浜市立大学客員教授
委員	早乙女智子	神奈川県立汐見台病院 産婦人科 産科副科長
委員	藤田伸二	医療法人社団 藤田小児科 院長
委員	里見正宏	鶴見区福祉保健センター長
委員	高橋秀明	栄区福祉保健センター 医務担当部長
委員	水野哲宏	横浜市衛生研究所長

目次

第1章 横浜市感染症発生動向調査事業の概要

1. 横浜市感染症発生動向調査事業	1
(1) 感染症対策の法的根拠	1
(2) 感染症発生動向調査とは	1
(3) 横浜市感染症発生動向調査システムの概要	1
(4) 横浜市病原体調査	2
(5) 横浜市感染症発生動向調査システムの目的	2
(6) NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease) について	2
2. 感染症発生動向調査における情報の流れ	4
3. 感染症の類型	5
4. 感染症法で規定されている感染症	7
5. 区別定点医療機関数	9

第2章 一・二・三・四類感染症及び全数把握対象の五類感染症報告状況

1. 一類感染症	11
2. 二類感染症	11
3. 三類感染症	12
4. 四類感染症	14
5. 五類感染症(全数把握対象)	15
(表) 年別患者報告数(全数把握対象の感染症)	20
(表) 2013年に報告された全数把握対象の感染症	22

第3章 五類感染症(定点把握対象)報告状況

1. インフルエンザ定点把握対象感染症	29
(1) インフルエンザ	29
2. 小児科定点把握対象感染症	30
(1) RSウイルス感染症	30
(2) 咽頭結膜熱	31
(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32
(4) 感染性胃腸炎	33
(5) 水痘	34
(6) 手足口病	35
(7) 伝染性紅斑	36
(8) 突発性発しん	37
(9) 百日咳	38
(10) ヘルパンギーナ	39
(11) 流行性耳下腺炎	40

3. 眼科定点把握対象感染症	41
(1) 急性出血性結膜炎	41
(2) 流行性角結膜炎	42
4. 性感染症定点把握対象感染症	43
(1) 性器クラミジア感染症	43
(2) 性器ヘルペスウイルス感染症	44
(3) 尖圭コンジローマ	44
(4) 淋菌感染症	45
5. 基幹病院定点把握対象感染症	46
(1) 細菌性髄膜炎	46
(2) 無菌性髄膜炎	46
(3) マイコプラズマ肺炎	46
(4) クラミジア肺炎	47
(5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	47
(6) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47
(7) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	48
(8) 薬剤耐性緑膿菌感染症	48
(9) 薬剤耐性アシネトバクター感染症	49
6. インフルエンザ入院サーベイランス	49
7. 定点医療機関からの報告状況	50
(表) 定点把握対象の感染症 患者報告数	51

第4章 病原体情報

1. ウイルス検査	63
(1) 病原体定点調査成績について	63
(2) 横浜市における2013/2014シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析	66
2. 細菌検査	71

第5章 資料

1. 横浜市感染症発生動向調査事業定点一覧	75
2. 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱	82
3. 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱	92
4. 横浜市感染症発生動向調査委員会報告	94
5. 感染症に気をつけよう	118